

麻疹風しん混合(MR)ワクチンの説明書

麻疹（はしか）とは

麻疹ウイルスの空気感染・飛沫感染・接触感染によって発症します。感染力が強く予防接種を受けないと、多くの人がかかる病気です。潜伏期間は 10～12 日間です。主な症状は、発熱、せき、鼻汁、目やに、赤い発しんです。最初 3～4 日間は 38℃前後の熱で、一時下がりがけたかと思うとまた 39～40℃の高熱となり、赤い発しんが出始め、発しんは全身に広がります。高熱は 3～4 日で解熱し、次第に発しんも消失しますが、しばらく色素沈着が残ります。主な合併症として、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎などがあります。発生する割合は、患者 100 人中、中耳炎は約 7～9 人、肺炎は約 6 人です。脳炎は約 1,000 人に 1～2 人の割合で発生がみられます。また、麻疹治癒後数年から 10 年経ってから発症する亜急性硬化性全脳炎（SSPE）は極めて重篤で、約 10 万人に 1～2 人の割合で発生がみられます。予防接種を受けず麻疹にかかった場合、1,000 人に 1 人の割合で死亡することがあります。

風しんとは

風しんウイルスの飛沫感染・接触感染によって発症します。潜伏期間は 2～3 週間です。主な症状は、麻疹より淡い色の赤い発しん、発熱、首の後ろのリンパ節腫脹などです。その他、咳、鼻汁、眼球結膜の充血などの症状もみられます。子どもの場合、発しんも熱も 3 日程度で治ることが多いので「三日ばしか」とも呼ばれています。合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。血小板減少性紫斑病は約 3,000 人に 1 人、脳炎は約 6,000 人に 1 人の割合で発生がみられます。大人になってから感染すると、子どもの時より重症化する傾向がみられます。妊娠中（とくに妊娠早期）に風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんに、心臓病、白内障、聴力障害など「先天性風しん症候群」を引き起こす可能性があります。

接種対象年齢

接種回数・間隔

【1 期】1 歳以上 2 歳未満で 1 回。

【2 期】5 歳以上 7 歳未満かつ小学校入学前 1 年間（年長児）に 1 回。

ワクチンの副反応

- 注射部位の症状（赤み、硬結、腫れ、痛みなど）、発熱（37.5℃以上）などがみられます。
- 極めてまれに、ショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳炎・脳症、けいれん等が報告されています。

予防接種を受けたあと、副反応がおこった場合は医師の診察・治療を必ず受けてください。

受けることができない人

- 明らかに発熱している人（37.5℃以上の場合）
- 重い急性疾患にかかっている人
- このワクチンの成分によってアナフィラキシー（通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましん

などを伴う重いアレルギー反応)をおこしたことがある人

- その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた人

予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人

- 輸血またはガンマグロブリン製剤の投与を受けたことがある人
- 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある人
- 過去に予防接種を受けたとき、接種後 2 日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギー症状と思われる異常がみられた人
- 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある人
- 過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある人、または近親者に先天性免疫不全症の方がいる人
- このワクチンの成分によってアレルギーをおこすおそれのある人

ワクチン接種後の注意

- 接種後 30 分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、すぐ連絡がとれるようにしておきましょう。
- 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- 接種当日は過度な運動を控え、1 週間は体調に注意しましょう。
- 接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位を強くこすることはやめましょう。
- 接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- 注射生ワクチンを接種後、他の注射生ワクチンと接種する場合は、27 日以上の間隔をあけてください。